

3月の中小企業月次景況調査

〔平成30年3月末現在〕

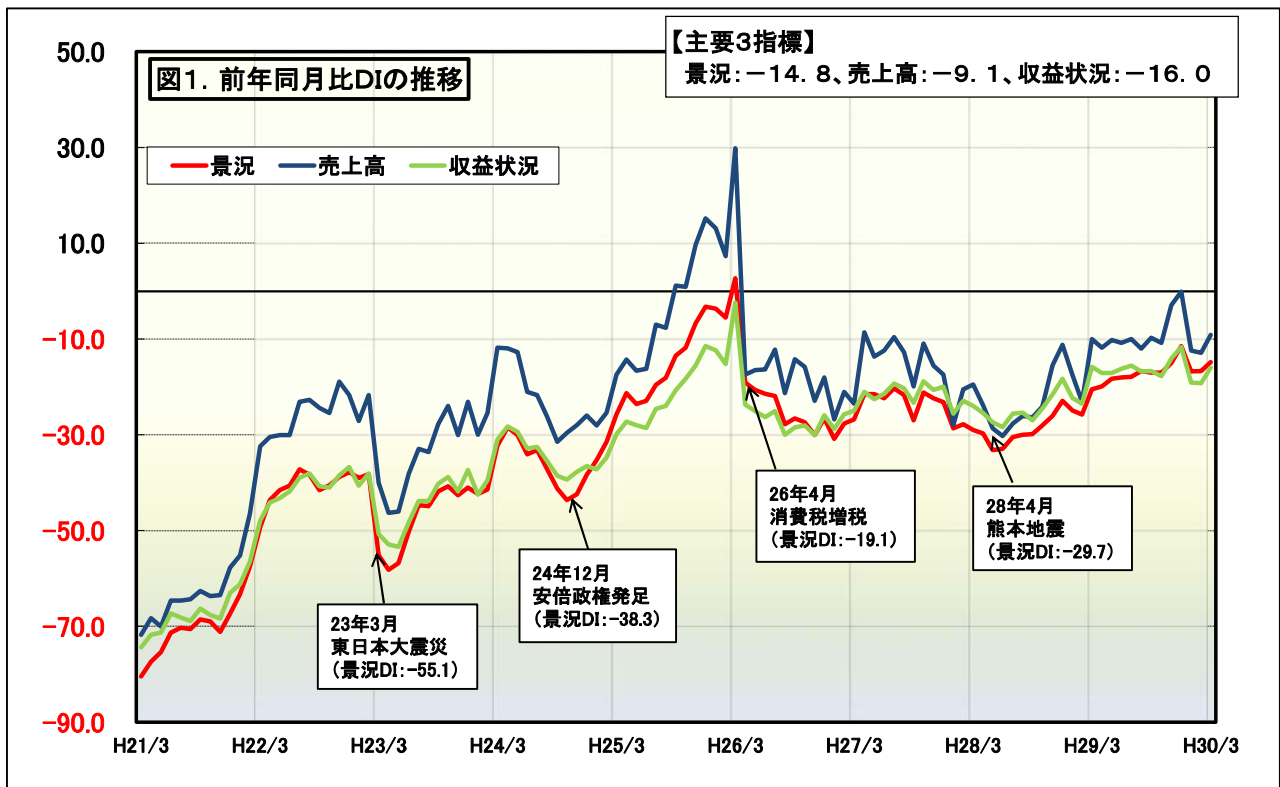


全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

平成30年4月20日発表

◎3月のDIは、9指標中2指標が悪化。主要3指標については、全て上昇したものの、12月の水準には回復していない。

○年度末需要が売上高を押し上げたものの、資源価格上昇に伴う原材料価格上昇や運送単価高騰などの経営コスト上昇の影響が依然として強く、最終財への価格転嫁が進展しない状況であることから、収益の改善は限定的となった。運輸業を始めとした広範な業種において人材確保が困難な状況が続いており、中小企業の先行きは引き続き注視していく必要がある。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合 (協同組合、商工組合等) の役職員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況 (前年同月比) です。

(本発表資料のお問い合わせ先)

全国中小企業団体中央会

担当：政策推進部

TEL 03-3523-4902

<http://www.chuokai.or.jp>

3月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

1. 3月のD Iは、前月比で9指標中2指標が悪化。（販売価格、在庫数量）
2. 主要3D Iのうち、売上高D Iは年度末に向けた受注増加等により3.8ポイント上昇したが、原材料費や人件費高騰等の影響が強いことに加えて、とくに非製造業における販売価格への転嫁が十分にできなかったことから、収益状況の上昇は3.2ポイントに留まった。
3. 雇用人員D Iは1.2ポイントの上昇となったが、依然として-8.5ポイントと低迷。人材を確保できないことから受注を回避する行動が多数見受けられた。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

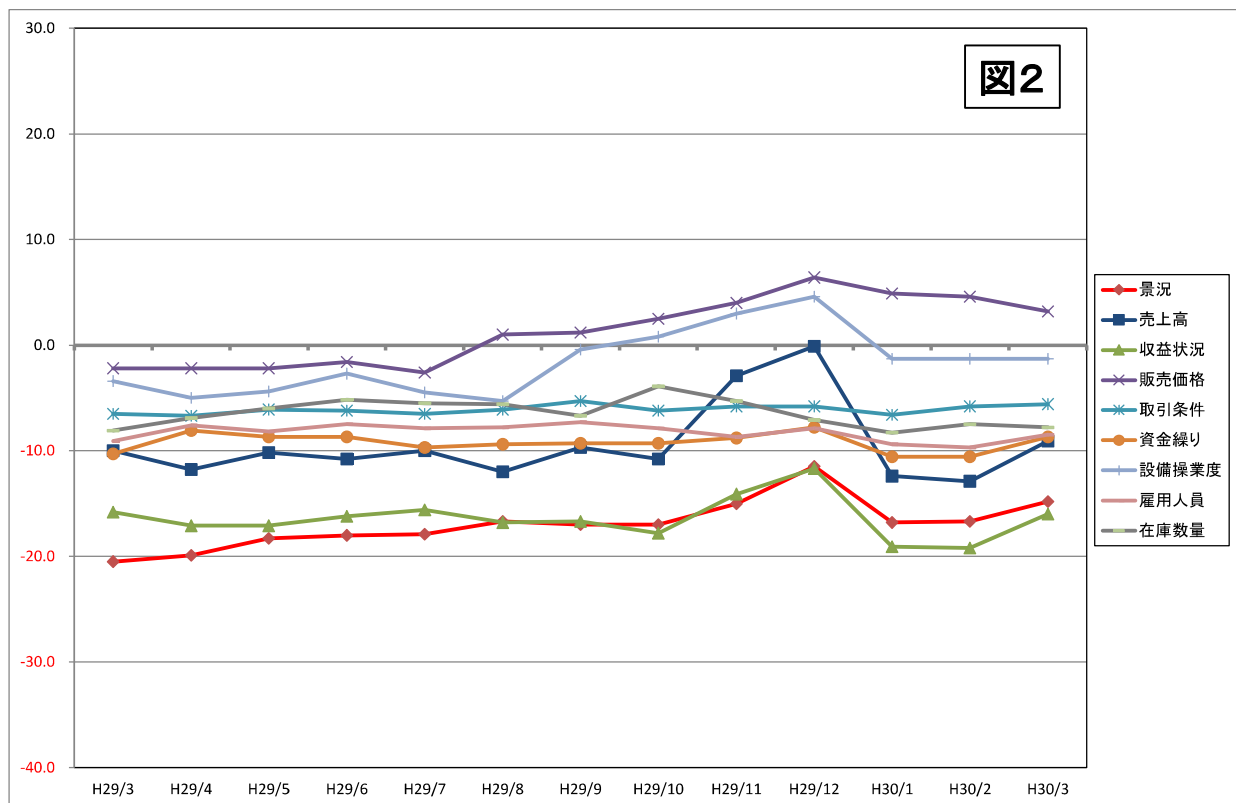


表1	H29													H30		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	前月比		
景況	-20.5	-19.9	-18.3	-18.0	-17.9	-16.7	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	1.9		
売上高	-10.0	-11.8	-10.2	-10.8	-10.0	-12.0	-9.7	-10.8	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	3.8		
収益状況	-15.8	-17.1	-17.1	-16.2	-15.6	-16.8	-16.7	-17.8	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	3.2		
販売価格	-2.2	-2.2	-2.2	-1.6	-2.6	1.0	1.2	2.5	4.0	6.4	4.9	4.6	3.2	-1.4		
取引条件	-6.5	-6.7	-6.1	-6.2	-6.5	-6.1	-5.3	-6.2	-5.8	-5.8	-6.6	-5.8	-5.6	0.2		
資金繰り	-10.3	-8.1	-8.7	-8.7	-9.7	-9.4	-9.3	-9.3	-8.8	-7.8	-10.6	-10.6	-8.7	1.9		
設備操業度	-3.4	-5.0	-4.4	-2.7	-4.5	-5.3	-0.4	0.8	3.0	4.6	-1.3	-1.3	-1.3	0.0		
雇用人員	-9.1	-7.6	-8.2	-7.5	-7.9	-7.8	-7.3	-7.9	-8.7	-7.9	-9.4	-9.7	-8.5	1.2		
在庫数量	-8.1	-6.9	-6.0	-5.2	-5.5	-5.6	-6.7	-3.9	-5.3	-7.1	-8.3	-7.5	-7.8	-0.3		

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 当月は年度末需要が売上高を押し上げ、製造業・非製造業ともに広範な業種において景況感が改善。中旬以降に温暖な気候となったことが消費者の購買意欲を喚起した影響もあり、商店街の景況感は大幅に改善した。
一方、資源価格上昇に伴う原材料価格上昇や運送単価高騰などの経営コスト上昇圧力が依然として強いなか、最終財への価格転嫁が進展しない状況が続いていることから、収益の改善は限定的であった。
2. 雇用人員D I が前月比1. 2ポイント上昇したものの、依然として低い水準が続いており、労働力不足に改善の兆しは見られない。人手不足は中小・小規模企業者の経営に深刻な打撃を与えているが、労働集約型産業が多い非製造業への影響が特に大きい。
当月も人件費高騰による収支悪化の他、新規採用の断念、受注回避等の行動が多数報告されており、当面の期間において引き続き厳しい経営環境が続くことが見込まれる。

《主な報告内容》

◇年度末需要に伴う売上高の増加

- ・前半は気温・天候に左右されたが、後半は好天候に恵まれ、商店街各店舗のイベント・催事効果もあり、前年を上回る販売実績となった（茨城県／商店街）
- ・3月は年度末ということもあり仕事量が増加したが、人件費も増加したため、収益状況は改善していない（三重県／水道工事業）
- ・年度末引き渡しの新築着工物件の増加により受注が大幅に増加（宮崎県／製材業（プレカット））

◇経営コストのさらなる増大

- ・4月から塩の納入価格が16%前後値上げされ、製造コストが大幅に上昇。価格転嫁が困難であり、更に厳しい経営を強いられることになる（北海道／水産食料品）
- ・原料、副原料、光熱費、ガソリン・軽油等の価格上昇が相次いでいるなか、製品価格に転嫁できない状況（東京都／中華麺製造業）
- ・受注が増加し、販売価格も上昇しているが、資材の仕入単価高騰と運送費上昇により収益状況は悪化（沖縄県／鉄鋼業）

◇労働力不足の深刻化

- ・仕事はあるが、人手不足等で受注が困難。資材・運送費の上昇により利益が出ない（神奈川県／空調設備工事）
- ・人手不足感が増加。新規雇用の難しさに加え、転職がしやすい環境となっており、従業員の離職を防ぐ対応に苦しんでいる事業所が多い（長野県／一般機械器具製造）
- ・売上高は増加し、価格も上昇傾向にあるが、燃料価格の上げ止まりと人件費増加により利益が確保できない。人手不足により受注を断るケースも目立ち始めた（福岡県／一般貨物自動車運送業）
- ・大手・中堅建設会社が好調な業績を背景に好条件の新規採用を増加。中小建設会社の人材確保はますます厳しい状況となっている（長崎県／建設業）

※後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告（要旨）」等も参照。

1. 景 況

3月の景況は、前月と比べて製造業が1.9ポイント上昇、非製造業は1.8ポイント上昇。全体では1.9ポイント上昇の-14.8ポイントだった。

【D Iが大きく上昇した業種】

- ・10ポイント超：紙・加工品
- ・5～10ポイント：窯業・土石製品、その他の製造業、商店街、サービス業

【D Iが大きく悪化した業種】

- ・10ポイント超：非製造業その他
- ・5～10ポイント：電気機器

表2. 業種別【景 況】D Iの推移（前年同月比）

業 種 名	29/3	29/4	29/5	29/6	29/7	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	前月比
全 体	-20.5	-19.9	-18.3	-18.0	-17.9	-16.7	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8	1.9
製 造 業	-19.1	-15.7	-16.7	-14.2	-16.3	-15.9	-16.3	-13.1	-8.8	-7.4	-11.6	-13.4	-11.5	1.9
食 料 品	-24.5	-14.9	-21.2	-21.7	-30.7	-30.0	-29.8	-27.5	-21.7	-19.1	-27.0	-29.8	-25.6	4.2
繊維・同製品	-37.0	-32.3	-35.2	-35.2	-36.3	-33.1	-36.3	-31.7	-25.4	-22.1	-27.0	-17.8	-20.7	2.9
木材・木製品	-25.8	-21.5	-22.5	-24.0	-19.2	-23.8	-17.7	-23.8	-21.4	-21.1	-25.5	-28.1	-28.8	0.7
紙・紙加工品	-20.9	-36.4	-37.5	-21.8	-17.4	-25.0	-17.4	-8.3	-8.4	-9.6	-14.3	-33.3	-16.7	16.6
印 刷	-21.9	-24.5	-27.5	-36.5	-37.1	-41.3	-30.1	-31.1	-33.9	-29.5	-29.5	-29.5	-30.1	0.6
化 学 ゴ ム	-6.9	-20.7	-6.9	0.0	3.5	-3.5	-3.5	-6.9	-3.5	3.5	3.5	3.3	6.9	3.6
窯業・土石製品	-26.7	-22.0	-16.1	-14.5	-19.1	-16.9	-21.3	-17.8	-8.7	-14.8	-23.0	-32.1	-23.5	8.6
鉄 鋼 ・ 金 属	-5.9	-6.6	-1.4	10.1	9.4	8.8	8.6	11.4	17.1	20.1	17.4	20.6	19.3	1.3
一 般 機 器	7.1	11.5	14.8	14.3	10.9	15.8	12.4	20.7	20.1	19.4	23.0	15.0	15.0	0.0
電 気 機 器	0.0	0.0	8.3	16.2	0.0	7.9	18.4	14.3	22.8	25.0	11.4	23.6	18.1	5.5
輸 送 機 器	-14.7	-14.6	-12.2	-10.0	-7.3	-14.6	-17.0	-7.5	2.5	2.4	7.5	2.4	2.5	0.1
そ の 他	-30.3	-24.0	-30.9	-38.8	-30.2	-24.5	-23.5	-23.1	-27.7	-18.8	-23.1	-28.8	-20.7	8.1
非 製 造 業	-21.6	-23.1	-20.2	-20.9	-19.2	-17.3	-18.4	-20.0	-19.6	-14.7	-20.7	-19.3	-17.5	1.8
卸 売 業	-23.4	-28.8	-19.1	-17.8	-20.8	-17.8	-19.9	-21.9	-21.2	-14.2	-20.6	-19.2	-20.0	0.8
小 売 業	-37.7	-36.3	-32.6	-31.6	-27.6	-30.2	-33.8	-33.7	-35.9	-27.9	-30.3	-28.6	-28.1	0.5
商 店 街	-30.9	-34.1	-36.4	-33.5	-33.7	-33.6	-31.0	-32.9	-31.5	-23.1	-35.2	-38.7	-31.7	7.0
サ ー ビ ス 業	-6.4	-9.6	-6.4	-11.4	-11.1	-8.6	-12.3	-14.8	-10.4	-10.2	-15.2	-14.2	-8.9	5.3
建 設 業	-10.1	-10.4	-10.6	-9.6	-6.8	-0.4	1.6	1.2	-0.9	-0.4	-6.7	-2.5	-3.8	1.3
運 輸 業	-19.0	-21.7	-18.2	-24.2	-18.0	-13.6	-10.6	-16.5	-14.1	-7.6	-16.7	-13.9	-10.5	3.4
そ の 他	-22.2	-7.7	-14.3	-18.5	-10.4	-7.2	-14.3	-10.7	-17.9	-7.4	-11.1	-3.7	-17.9	14.2

Pick up!

「紙・紙加工品」は、月後半からの春に向けての新商品等の企画が動き出したこと等により市況が好転。原材料価格を製品価格に転嫁する動きもでてきており、**前月比16.0ポイントと大きく上昇**した。

「製造業その他」は、需要が低迷するなか、原材料・光熱費・運送費等の増加や慢性的な人手不足が引き続き影響し、**前月比-14.2ポイント悪化**した。

2. 売 上 高

3月の売上高は、前月より製造業が4.7ポイント上昇、非製造業も3.1ポイント上昇。
全体では3.8ポイント上昇の-9.1ポイントとなった。

【D I が大きく上昇した業種】

- ・10ポイント超：食料品、印刷、商店街、サービス業、運輸業
- ・5～10ポイント：木材・木製品、輸送機器、卸売業、非製造業その他

【D I が大きく悪化した業種】

- ・10ポイント超：電気機器
- ・5～10ポイント：小売業、建設業

表3. 業種別【売上高】D I の推移（前年同月比）

業 種 名	29/3	29/4	29/5	29/6	29/7	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	前月比
全 体	-10.0	-11.0	-10.2	-10.0	-10.0	-12.0	-9.7	-10.0	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-9.1	3.8
製 造 業	-7.1	-7.7	-6.4	-5.7	-9.7	-9.1	-4.7	-3.8	3.5	4.1	-6.6	-8.2	-3.5	4.7
食 料 品	-20.5	-8.4	-19.4	-12.4	-29.2	-21.8	-24.3	-21.5	-7.4	-4.0	-21.5	-27.8	-13.9	13.9
繊維・同製品	-28.3	-25.0	-23.2	-28.0	-28.2	-22.0	-25.0	-17.1	-7.9	-13.1	-13.9	-9.7	-10.3	-0.6
木材・木製品	-11.7	-19.9	-12.5	-20.7	-13.4	-23.8	-5.9	-19.5	-11.1	-16.0	-19.4	-26.4	-20.3	6.1
紙・紙加工品	-8.3	-22.7	-12.5	-26.1	-8.7	0.0	-26.1	-4.1	4.2	9.6	14.3	-23.8	-20.9	2.9
印 刷	-9.4	-26.2	-24.2	-41.3	-42.0	-41.2	-31.7	-31.2	-24.2	-18.0	-41.0	-34.5	-19.0	15.5
化 学 ゴ ム	13.8	3.4	24.2	6.9	31.1	6.9	24.2	38.0	20.7	31.1	17.2	30.0	31.0	1.0
窯業・土石製品	-6.7	-8.8	5.2	7.3	-8.1	-8.9	-5.2	-17.8	-2.9	-4.4	-32.6	-27.7	-22.8	4.9
鉄 鋼 ・ 金 属	3.6	2.9	6.6	18.8	13.1	18.2	23.0	25.0	26.4	33.0	25.3	26.4	25.7	-0.7
一 般 機 器	18.6	12.4	19.4	25.0	25.5	20.1	18.6	31.5	38.6	37.2	32.8	24.8	28.3	3.5
電 気 機 器	18.9	25.0	8.3	18.9	5.2	23.7	42.1	42.8	31.4	19.4	25.7	34.2	18.2	-16.0
輸 送 機 器	14.6	4.9	26.8	0.0	0.0	-4.9	-2.4	5.0	7.5	7.3	12.5	2.4	12.1	9.7
そ の 他	-23.2	-18.5	-29.1	-33.3	-30.2	-35.8	-19.7	-17.3	-14.8	-7.5	-21.1	-19.2	-18.9	0.3
非 製 造 業	-12.2	-15.0	-14.0	-14.8	-10.3	-14.1	-13.4	-16.1	-7.7	-3.4	-16.0	-16.4	-13.3	3.1
卸 売 業	-17.1	-24.7	-12.7	-12.3	-12.6	-22.9	-16.7	-13.2	-6.0	6.0	-11.4	-11.4	-6.4	5.0
小 売 業	-28.3	-23.7	-29.0	-26.3	-16.1	-21.9	-22.1	-29.3	-21.1	-8.0	-18.6	-16.0	-25.2	-9.2
商 店 街	-26.0	-18.6	-23.1	-28.6	-25.9	-25.6	-29.2	-41.4	-18.8	-16.5	-33.3	-41.0	-21.5	19.5
サ ー ビ ス 業	5.6	-0.3	5.7	-0.4	4.0	-3.2	-3.9	-11.2	-4.0	-8.0	-22.0	-19.4	-6.7	12.7
建 設 業	-4.2	-13.4	-13.1	-10.1	-10.9	-5.0	-7.5	-0.4	3.3	-3.8	-10.6	-5.4	-14.7	-9.3
運 輸 業	3.8	-9.8	-7.6	-12.8	0.0	-5.3	0.8	1.5	11.2	20.6	-0.8	-10.7	0.0	10.7
そ の 他	-22.2	0.0	-21.4	-7.4	-17.3	-14.3	-7.2	3.6	-14.3	-7.4	-18.5	0.0	7.1	7.1

Pick up!

「**商店街**」は、3月中旬以降に天候に恵まれたことで春物商品の動き出しが早くなったことに加え、春休みに伴う観光客の増加、新入学・新社会人シーズンに向けた各種イベントの実施等により、**前月比19.5ポイントと大幅に上昇した。**

「**電気機器**」は、半導体部品製造等一部の需要は旺盛なものの、全般的な需要は低調。小売業についても、平昌オリンピック・パラリンピック開催に伴う需要が想定を下回ったこと等から、**前月比-16.0ポイント悪化した。**

3. 収益状況

3月の収益状況は、前月より製造業が2.1ポイント上昇、非製造業も4.0ポイント上昇。
全体では3.2ポイント上昇の-16.0ポイントとなった。

【D Iが大きく上昇した業種】

- ・10ポイント超：窯業・土石製品、商店街
- ・5～10ポイント：食料品、サービス業、運輸業

【D Iが大きく悪化した業種】

- ・10ポイント超：化学ゴム、電気機器
- ・5～10ポイント：なし

表4. 業種別【収益状況】D Iの推移（前年同月比）

業 種 名	29/3	29/4	29/5	29/6	29/7	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	30/3	前月比
全 体	-15.8	-17.1	-17.1	-16.2	-15.6	-16.0	-16.7	-17.0	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-16.0	3.2
製 造 業	-15.3	-15.5	-14.7	-13.0	-15.0	-16.6	-14.4	-14.0	-9.7	-8.6	-15.2	-15.0	-13.7	2.1
食 料 品	-19.6	-18.3	-18.9	-17.9	-25.6	-27.5	-24.7	-25.5	-19.7	-16.1	-25.0	-29.8	-23.1	6.7
繊維・同製品	-26.8	-31.5	-25.6	-24.8	-28.3	-30.0	-29.9	-26.0	-17.5	-18.8	-23.0	-15.3	-17.5	-2.2
木材・木製品	-17.5	-17.3	-20.8	-19.8	-22.5	-24.6	-15.1	-26.3	-22.3	-24.4	-29.7	-32.3	-31.3	1.0
紙・紙加工品	-20.8	-27.3	-45.8	-17.4	-13.0	-20.9	-21.8	-25.0	-25.0	-14.3	-38.1	-57.1	-54.1	3.0
印 刷	-23.4	-34.4	-32.3	-33.3	-32.3	-42.8	-31.7	-31.1	-29.1	-19.7	-27.9	-26.2	-22.3	3.9
化 学 ゴ ム	-20.7	-24.1	-6.9	-24.1	-6.9	-20.7	-17.3	-13.8	-10.4	-6.9	-3.4	-3.3	-13.8	-10.5
窯業・土石製品	-15.5	-14.7	-11.0	-10.2	-13.2	-13.3	-13.2	-17.7	-8.0	-8.8	-29.6	-28.4	-15.4	13.0
鉄 鋼 ・ 金 属	-6.6	-5.1	-5.9	5.8	2.2	1.4	1.4	2.1	6.4	5.7	7.2	6.6	5.0	-1.6
一 般 機 器	5.3	0.0	5.5	10.7	7.3	10.6	4.4	16.2	17.6	17.7	14.1	8.0	8.9	0.9
電 気 機 器	2.7	13.8	8.4	0.0	-2.6	5.3	18.4	28.5	20.0	13.9	8.5	15.8	3.0	-12.8
輸 送 機 器	-14.6	-4.9	-4.9	-20.0	-14.7	-24.3	-14.7	-7.5	-2.5	-4.9	0.0	7.4	7.3	-0.1
そ の 他	-28.6	-20.4	-25.4	-29.6	-16.9	-15.1	-19.7	-21.1	-25.9	-18.8	-21.1	-21.1	-20.8	0.3
非 製 造 業	-16.2	-18.3	-18.9	-18.7	-16.0	-17.0	-18.6	-20.7	-17.5	-14.1	-22.0	-21.8	-17.0	4.0
卸 売 業	-17.6	-23.3	-21.8	-16.0	-21.3	-20.6	-24.5	-21.5	-14.7	-11.5	-17.4	-15.5	-16.8	-1.3
小 売 業	-35.9	-31.3	-31.9	-33.1	-26.4	-28.4	-31.2	-31.1	-33.0	-21.7	-27.7	-29.2	-27.8	1.4
商 店 街	-26.1	-23.0	-24.2	-29.2	-27.7	-26.2	-29.9	-37.8	-27.2	-23.2	-35.2	-38.7	-25.1	13.6
サ ー ビ ス 業	1.8	-3.5	-3.2	-5.0	-2.9	-6.5	-8.8	-13.7	-6.5	-12.3	-19.9	-17.5	-10.7	6.8
建 設 業	-8.0	-10.8	-10.5	-10.0	-9.3	-4.2	-6.7	-4.2	-1.2	-3.0	-8.4	-8.0	-7.1	0.9
運 輸 業	-5.3	-19.4	-22.0	-20.4	-6.8	-15.1	-8.3	-19.5	-23.1	-11.4	-26.5	-27.0	-19.5	7.5
そ の 他	-11.1	-3.9	-17.9	-7.4	-10.4	-17.9	-7.2	0.0	-14.3	-11.1	-25.9	-14.8	-14.3	0.5

Pick up!

「**窯業・土石製品**」は、天候に恵まれたこともあり、年度末に向けた生コン需要が増加し、**前月比+13.0ポイント上昇**した。

「**化学ゴム**」は、新規物件が少ないことなどにより市場が縮小基調。材料費・運送費が大幅に値上がりしているなか、納入価格が低位安定で推移しているため収益が悪化。**前月比-10.5ポイントの悪化**となった。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り

製造業は-6.9(前月-7.7)、非製造業は-10.2(前月-12.9)、全体では-8.7(前月-10.6)となり、前月と比べて1.9ポイントの上昇となった。

(2) 販売価格

製造業は3.3(前月1.8)、非製造業は3.2(前月6.8)、全体では3.2(前月4.6)となり、前月と比べて1.4ポイントの悪化となった。

(3) 取引条件

製造業は-3.5(前月-4.5)、非製造業は-7.3(前月-6.9)、全体では-5.6(前月-5.8)となり、前月と比べて0.2ポイントの上昇となった。

(4) 設備操業度（製造業のみ）

設備操業度は-1.3(前月-1.3)となり、前月と不変だった。

(5) 雇用人員

製造業は-3.9(前月-5.2)、非製造業は-12.0(前月-13.2)、全体では-8.5(前月-9.7)となり、前月と比べて1.2ポイントの上昇となった。

(6) 在庫数量

製造業は-7.8(前月-6.4)、非製造業は-7.7(前月-9.1)、全体では-7.8(前月-7.5)となり、前月と比べて0.3ポイントの悪化となった。

~~Calendar 2018 国内外の主なトピックス（平成30年4月）~~

4月2日（月） 日銀短観発表。企業の景況感を示す業況判断指数（DI）が大企業製造業で8四半期ぶりに悪化。

4月3日（火） 自民党と公明党がカジノ入場料を1回6000円で合意。月内にもカジノ法案を国会に提出。

4月6日（金） 2月景気動向指数。先行指数は前月比0.2ポイント上昇の105.8となり3カ月ぶりに上昇。
一致指数は前月比0.7ポイント上昇の115.6となり2カ月ぶりのプラス。
基調判断は17カ月連続で据え置き。

4月6日（金） 米国3月雇用統計。10.3万人増で伸び悩み。失業率は4.1%で歴史的な低水準のまま。

4月9日（月） 今景気ウォッチャー調査。景気の現状判断DI（季節調整値）は48.9と前月から0.3ポイント上昇し、4カ月ぶりの改善。

4月14日（土） 英米仏が化学兵器使用を理由にシリアを攻撃。

4月16日（月） 2017年度発売首都圏マンションは7%値上がり。首都圏バブル期の90年度以来の高水準。

4月27日（金） 完全失業率／鉱工業生産指数／住宅着工統計 等発表予定

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(平成30年3月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全 体	-14.8	-9.1	-16.0	3.2	-5.6	-8.7	-1.3	-8.5	-7.8
製 造 業	-11.5	-3.5	-13.7	3.3	-3.5	-6.9	-1.3	-3.9	-7.8
非 製 造 業	-17.5	-13.3	-17.8	3.2	-7.3	-10.2		-12.0	-7.7

(製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食 料 品	-25.6	-13.9	-23.1	2.5	-6.2	-13.3	-12.3	-16.9	-7.2
繊維・同製品	-20.7	-10.3	-17.5	0.8	-1.6	-9.5	-3.9	-15.1	-11.1
木材・木製品	-28.8	-20.3	-31.3	8.5	-6.8	-12.8	-14.4	-4.2	-16.1
紙・紙加工品	-16.7	-20.9	-54.1	4.2	0.0	-8.4	-12.5	0.0	-8.3
印 刷	-30.1	-19.0	-22.3	-15.8	-15.9	-17.4	-14.3	-12.7	-15.9
化 学 ゴ ム	6.9	31.0	-13.8	-3.4	-10.3	-6.9	-3.4	13.8	6.9
窯業・土石製品	-23.5	-22.8	-15.4	14.0	-0.7	-9.5	-17.6	-9.5	-14.0
鉄 鋼 ・ 金 属	19.3	25.7	5.0	5.0	-0.7	2.8	23.5	5.0	0.0
一 般 機 器	15.0	28.3	8.9	4.4	1.7	7.0	17.7	13.3	0.0
電 気 機 器	18.1	18.2	3.0	-9.1	0.0	12.1	30.3	24.3	-6.1
輸 送 機 器	2.5	12.1	7.3	-7.4	-2.4	4.9	17.1	0.0	-14.7
そ の 他	-20.7	-18.9	-20.8	7.5	-1.9	-18.8	0.0	3.7	0.0

(非製造業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸 売 業	-20.0	-6.4	-16.8	2.7	-10.0	-9.5		-10.5	-7.3
小 売 業	-28.1	-25.2	-27.8	8.5	-13.1	-17.2		-13.8	-7.3
商 店 街	-31.7	-21.5	-25.1	-1.8	-11.4	-18.0		-14.4	-9.0
サービス業	-8.9	-6.7	-10.7	0.0	-3.6	-5.7		-11.1	
建 設 業	-3.8	-14.7	-7.1	-0.4	-1.7	-4.2		-7.1	
運 輸 業	-10.5	0.0	-19.5	9.8	-1.5	-6.8		-21.8	
そ の 他	-17.9	7.1	-14.3	3.5	0.0	3.6		7.1	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(平成 30年 3月 末現在)

(単位: %)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全 体	製造業	9.1	67.0	23.9	20.4	50.2	29.5	10.5	63.0	26.5	12.0	79.2	8.8	2.5	89.3	8.1	4.3	82.7	13.0	14.8	69.1	16.1	5.9	79.6	14.4	7.8	76.6	15.6
		10.8	66.9	22.3	22.6	51.3	26.1	10.7	64.9	24.4	10.1	83.1	6.8	2.4	91.7	5.9	5.0	83.1	11.9	14.8	69.1	16.1	8.5	79.1	12.4	7.1	76.0	14.9
非 製造業	建設業	7.7	67.1	25.2	18.7	49.4	32.0	10.4	61.5	28.2	13.5	76.2	10.3	2.6	87.5	9.9	3.7	82.4	13.9	0.0	0.0	0.0	4.0	80.1	16.0	8.9	74.5	16.6

(製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食 料	繊維・同製品	2.6	69.2	28.2	13.8	58.5	27.7	4.1	68.7	27.2	8.7	85.1	6.2	0.0	93.8	6.2	2.6	81.5	15.9	4.6	78.5	16.9	3.6	75.9	20.5	8.2	76.4	15.4
		7.1	65.1	27.8	15.9	57.9	26.2	7.1	68.3	24.6	8.7	83.3	7.9	4.0	90.5	5.6	4.0	82.5	13.5	15.1	65.9	19.0	3.2	78.6	18.3	8.7	71.4	19.8
木 材	木製品	1.7	67.8	30.5	11.9	55.9	32.2	5.1	58.5	36.4	17.8	72.9	9.3	1.7	89.8	8.5	2.5	82.2	15.3	6.8	72.0	21.2	6.8	82.2	11.0	10.2	63.6	26.3
		8.3	66.7	25.0	20.8	37.5	41.7	4.2	37.5	58.3	12.5	79.2	8.3	0.0	100.0	0.0	8.3	75.0	16.7	16.7	54.2	29.2	8.3	83.3	8.3	16.7	58.3	25.0
紙 ・ 紙加工品	印刷	4.8	60.3	34.9	15.9	49.2	34.9	7.9	61.9	30.2	3.2	77.8	19.0	1.6	81.0	17.5	1.6	79.4	19.0	9.5	66.7	23.8	3.2	81.0	15.9	0.0	84.1	15.9
		17.2	72.4	10.3	44.8	41.4	13.8	10.3	65.5	24.1	6.9	82.8	10.3	0.0	89.7	10.3	0.0	93.1	6.9	13.8	69.0	17.2	24.1	65.5	10.3	13.8	79.3	6.9
窯業・土石製品	窯業・金属	8.1	60.3	31.6	22.8	31.6	45.6	14.0	56.6	29.4	19.9	74.3	5.9	4.4	90.4	5.1	5.9	78.7	15.4	7.4	67.6	25.0	1.5	87.5	11.0	2.2	81.6	16.2
		26.4	66.4	7.1	36.4	52.9	10.7	15.7	73.6	10.7	8.6	87.9	3.6	3.6	92.1	4.3	5.7	91.4	2.9	31.4	60.7	7.9	11.4	82.1	6.4	5.0	90.0	5.0
鉄 鋼	一般機器	21.2	72.6	6.2	35.4	57.5	7.1	18.6	71.7	9.7	4.4	95.6	0.0	3.5	94.7	1.8	9.7	87.6	2.7	23.9	69.9	6.2	19.5	74.3	6.2	8.8	82.3	8.8
		24.2	69.7	6.1	36.4	45.5	18.2	18.2	66.7	15.2	3.0	84.8	12.1	0.0	100.0	0.0	18.2	75.8	6.1	33.3	63.6	3.0	27.3	69.7	3.0	9.1	75.8	15.2
電 気 機 器	輸送機器	17.1	68.3	14.6	34.1	43.9	22.0	24.4	58.5	17.1	2.4	87.8	9.8	4.9	87.8	7.3	7.3	90.2	2.4	29.3	58.5	12.2	19.5	61.0	19.5	2.4	80.5	17.1
		5.7	67.9	26.4	11.3	58.5	30.2	9.4	60.4	30.2	11.3	84.9	3.8	1.9	94.3	3.8	3.8	73.6	22.6	9.4	81.1	9.4	7.5	88.7	3.8	9.4	81.1	9.4

(非製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸 売 業	小 売 業	9.1	61.8	29.1	25.0	43.6	31.4	12.7	57.7	29.5	19.5	63.6	16.8	2.7	84.5	12.7	3.2	84.1	12.7				4.5	80.5	15.0	10.9	70.9	18.2
		5.8	60.2	33.9	17.5	39.8	42.7	9.9	52.3	37.7	23.7	61.1	15.2	1.8	83.3	14.9	4.1	74.6	21.3				3.5	79.2	17.3	8.2	76.3	15.5
商 店 街	サ ー ビ ス 業	1.2	65.9	32.9	10.2	58.1	31.7	6.0	62.9	31.1	7.8	82.6	9.6	0.0	88.6	11.4	2.4	77.2	20.4				1.2	83.2	15.6	7.8	75.4	16.8
		8.9	73.3	17.8	20.3	52.7	27.0	12.1	65.1	22.8	6.4	87.2	6.4	3.2	90.0	6.8	4.3	85.8	10.0				4.6	79.7	15.7			
建 設 業	運 輸 業	11.3	73.6	15.1	13.8	57.7	28.5	9.6	73.6	16.7	6.7	86.2	7.1	4.2	90.0	5.9	3.3	89.1	7.5				3.8	85.4	10.9			
		11.3	66.9	21.8	26.3	47.4	26.3	12.8	54.9	32.3	12.8	84.2	3.0	4.5	89.5	6.0	4.5	84.2	11.3				6.0	66.2	27.8			
そ の 他	そ の 他	0.0	82.1	17.9	21.4	64.3	14.3	0.0	85.7	14.3	7.1	89.3	3.6	0.0	100.0	0.0	3.6	96.4	0.0				7.1	92.9	0.0			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(平成 30年 3月 末現在)

〔全 国〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
業 種									
全 体	9.1	67.0	23.9	20.4	50.2	29.5	10.5	63.0	26.5
製造業	10.8	66.9	22.3	22.6	51.3	26.1	10.7	64.9	24.4
非製造業	7.7	67.1	25.2	18.7	49.4	32.0	10.4	61.5	28.2

〔近畿地方〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	8.2	64.4	27.4	21.2	49.3	29.5	-8.3	8.6	63.0
製造業	12.1	59.6	28.4	25.5	47.5	27.0	-1.5	9.9	62.4
非製造業	4.6	68.9	26.5	17.2	51.0	31.8	-14.6	7.3	63.6

滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県

〔北海道・東北地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	5.4	67.7	26.9	12.2	51.4	36.4	-24.2	6.0	63.9
製造業	4.6	71.8	23.7	15.3	53.4	31.3	-16.0	6.9	67.9
非製造業	5.9	65.4	28.7	10.5	50.2	39.2	-28.7	5.5	61.6

〔中国地方〕

鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	11.1	68.0	20.9	25.8	42.2	32.0	-6.2	13.5	63.9
製造業	14.9	65.8	19.3	28.1	47.4	24.6	3.5	11.4	69.3
非製造業	7.7	70.0	22.3	23.8	37.7	38.5	-14.7	15.4	59.2

〔関東・甲信越地方〕

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	11.4	65.1	23.5	22.7	50.3	26.9	-4.2	11.8	63.6
製造業	12.3	65.7	22.0	24.6	49.3	26.1	-1.5	11.6	64.6
非製造業	10.7	64.7	24.6	21.4	51.1	27.5	-6.1	12.0	62.8

〔四国地方〕

徳島県、香川県、愛媛県、高知県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	8.0	65.3	26.7	17.6	54.5	27.8	-10.2	8.5	64.2
製造業	5.1	74.7	20.3	12.7	64.6	22.8	-10.1	3.8	75.9
非製造業	10.3	57.7	32.0	21.6	46.4	32.0	-10.4	12.4	54.6

〔東海・北陸地方〕

静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県

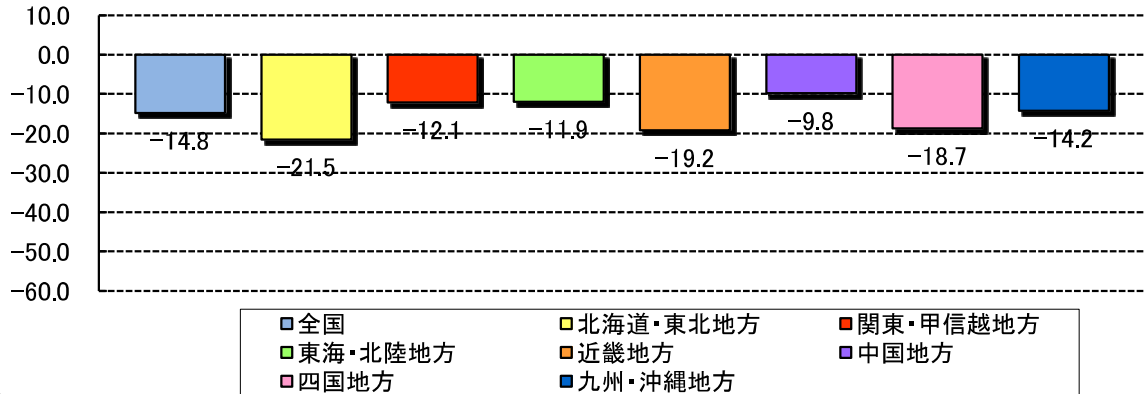
項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	10.6	66.9	22.5	23.0	50.4	26.6	-3.6	12.7	58.1
製造業	16.8	63.9	19.4	27.7	49.7	22.5	5.2	15.7	56.5
非製造業	4.6	69.9	25.5	18.4	51.0	30.6	-12.2	9.7	59.7

〔九州・沖縄地方〕

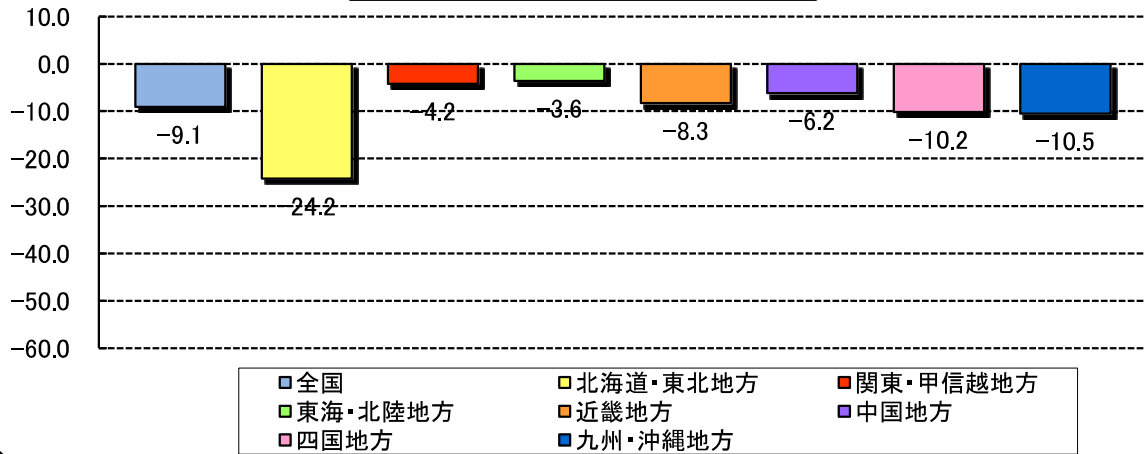
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	7.0	71.8	21.2	18.5	52.4	29.0	-10.5	11.0	64.8
製造業	4.8	72.1	23.1	17.0	54.4	28.6	-11.6	10.2	66.7
非製造業	8.4	71.6	20.0	19.6	51.1	29.3	-9.7	11.6	63.6

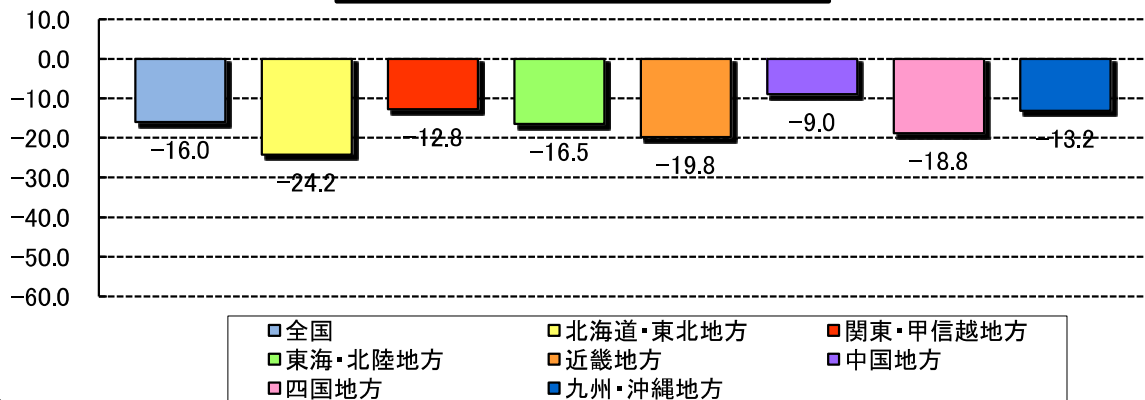
全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)】
(平成30年3月末現在・前年同月比)



全国及び各地域別の【売上高DI(全体)】
(平成30年3月末現在・前年同月比)



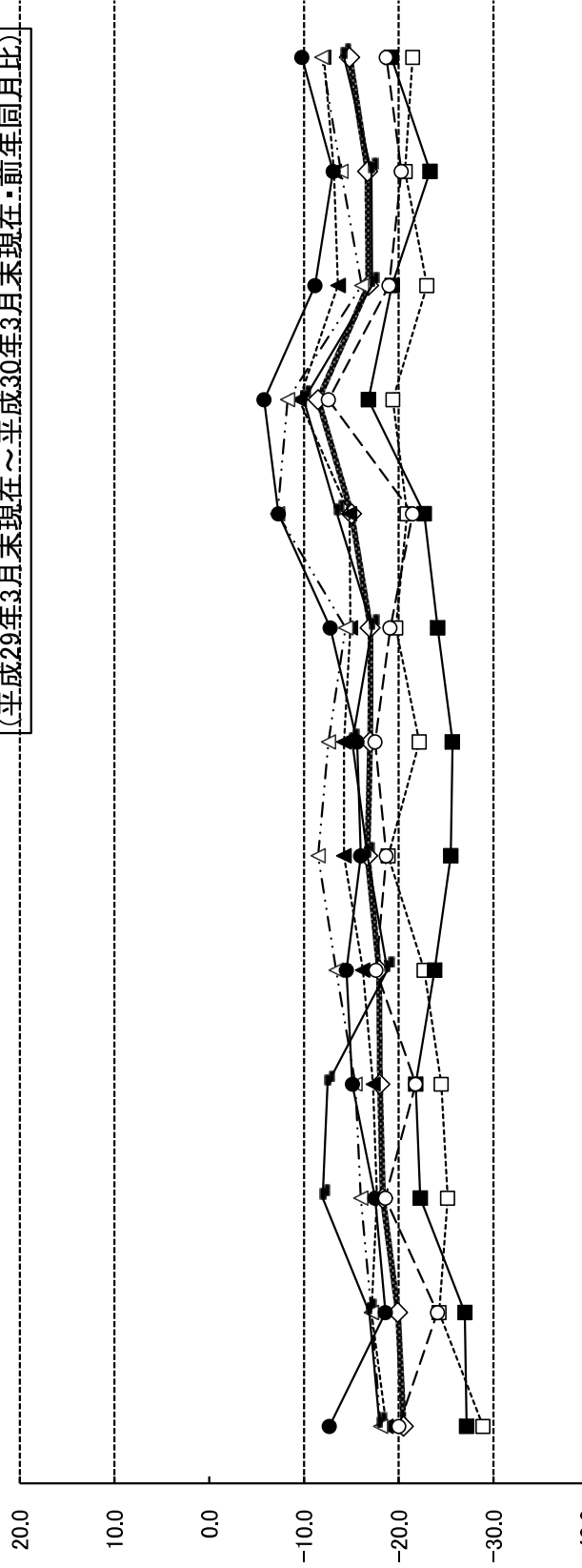
全国及び各地域別の【収益状況DI(全体)】
(平成30年3月末現在・前年同月比)



〔北海道・東北地方〕
〔関東・甲信越地方〕
〔東海・北陸地方〕
〔近畿地方〕
〔中国地方〕
〔四国地方〕
〔九州・沖縄地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県
静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
徳島県、香川県、愛媛県、高知県
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】
(平成29年3月末現在～平成30年3月末現在・前年同月比)



	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	30年 1月末	2月末	3月末
系列1	-20.5	-19.9	-18.3	-18.0	-17.9	-16.7	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	-14.8
系列2	-28.9	-24.3	-25.2	-24.5	-22.7	-18.9	-22.2	-19.7	-20.9	-19.4	-23.0	-20.7	-21.5
系列3	-18.7	-17.1	-17.7	-17.3	-16.2	-14.2	-14.2	-14.9	-14.8	-9.5	-13.6	-13.2	-12.1
系列4	-18.1	-17.1	-16.0	-15.4	-13.4	-11.5	-12.6	-14.4	-7.2	-8.3	-16.1	-13.9	-11.9
系列5	-27.2	-27.0	-22.3	-21.8	-23.8	-25.5	-25.7	-24.1	-22.7	-16.8	-19.3	-23.3	-19.2
系列6	-12.7	-18.6	-17.5	-15.1	-14.5	-16.0	-15.6	-12.8	-7.3	-5.8	-11.2	-13.1	-9.8
系列7	-20.0	-24.1	-18.6	-21.8	-17.6	-18.7	-17.5	-19.1	-21.5	-12.6	-19.0	-20.3	-18.7
系列8	-18.0	-16.9	-12.0	-12.5	-18.8	-16.7	-15.1	-17.2	-13.5	-10.0	-17.2	-17.1	-14.2

〔北海道・東北地方(系列2)〕 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
〔関東・甲信越地方(系列3)〕 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県
〔東海・北陸地方(系列4)〕 静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
〔近畿地方(系列5)〕 滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
〔中国地方(系列6)〕 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
〔四国地方(系列7)〕 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
〔九州・沖縄地方(系列8)〕 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※系列1は全国の数値です。

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <北海道 水産食料品>

今のところ目立った変化はないが、来期に向けて物流費の上昇、雇用確保が困難などの不安要素が残り、明るい展望は見えない。

2. <青森県 菓子>

売上収益状況は前年並であったが、雇用人員は人手不足で減少。

3. <岩手県 麺類>

大雪の影響と気温の寒暖差が激しい3月だったが売上は例年並みに着地。食品スーパーの小売店での売上構成比率が減少し、ドラッグストア、ホームセンターが徐々に伸長。依然として低価格商品の売り場需要は変わらず、収益の悪化は継続。

4. <宮城県 水産練製品>

主原料、副材料、包材、運賃、電力、人件費等々値上がりし、各社経営が苦しくなっている。当業界は大手の値上げ動向がいまだに見えてこない。

5. <福島県 漬物>

原料、運賃、人件費、塩、添加物、包装資材等の値上げが相次いでおり、利益の確保が厳しくなっている。価格転嫁ができていないのが現状。

6. <茨城県 納豆>

業界全体で人件費、物流費、原材料等が値上がりし、収益が悪化。4月より大手メーカーの商品値上げに伴い、中小メーカーにおいても27年振りの商品値上げが予想される。

7. <東京都 米菓>

高齢による廃業や事業の大幅縮小等により組合員が複数脱退。

8. <長野県 調味料>

売上はようやく昨年並みに回復したが、収益、業界の景況は厳しい状況が続いた。

9. <静岡県 水産食料品>

この4月から、運送費、塩類、ダンボール類、ビニール類等の値上げが実施され、水産業を取り巻く経営環境はますます厳しくなりつつある。

10. <岐阜県 食肉>

H A C C P 導入が制度化され、その対応が急務となっている。仕入価格の高騰により、景況が上向かない。

11. <和歌山県 梅干し>

人手不足は深刻で、今後の加工作業並びに5月～6月の収穫作業にも影響が懸念される。

12. <大分県 菓子>

後継者のいる店舗は活気があり、親子で前向きに取り組んで仕事をしているが、後継者のいない店舗は、いつ閉めようかという考えが会話の中からリアルに感じられた。

繊維・同製品製造業

13. <秋田県 繊維>

各社とも昨年並みの受注は確保している。追加発注の引き合いもあるが納期までの余裕がなく、断らざるを得ない状況にある。

14. <群馬県 外衣・シャツ>

ニットは、原材料価格が値上げされる中、販売価格は変わらず、厳しい経営が続いている。
繊維製品は、後継者問題、労働者不足が深刻。

15. <石川県 織物>

原材料の高騰、輸送コスト大幅アップ、繊維くず等産業廃棄物処理経費の増大を受け稼働率、採算性は低迷したままの企業が多く、産地全体として厳しい状況で推移している。

16. <滋賀県 麻織物>

寝具類の素材関係は、好調な状況で推移している。

17. <和歌山県 繊維>

年度末決算を控えている企業も多く、特に余計な在庫を持ちたくないのが原因で、商品の動きが悪い。

18. <徳島県 縫製>

3月末から気温の上昇・好天気恵まれ、春・夏物が売れている。受注は順調に推移しているが、人手不足は相変わらず続いている。ハローワーク等色々募集を出しているが、問い合わせは少ない。

19. <沖縄県 繊維>

引き続き求人難で生産高が抑えられる傾向がある。また、品質管理などにも影響することが懸念材料となっている。

木材・木製品製造業

20. <岩手県 木材チップ製造>

2月、3月は大雪・強風・雨などの異常気象により、実働時間が少なく、特に高性能機械に不向きな広葉樹生産に多大な影響を及ぼした。広葉樹を主とするチップ工場は原木在庫が底をついた状況にある。

21. <群馬県 製材・木製品製造>

仕入単価は変わらないが販売単価が値下がり傾向にあるため、収益は悪化。荷動きは悪くない。

22. <埼玉県 木材・木製品>

材料費の増加により資金繰りが悪化し、3～4月の業績好転は期待出来ない。年度末にこんなに動きが悪いのは珍しい。

23. <静岡県 木材・木製品>

輸入原料・製品の価格高騰に加え、フレート上昇により、業況が一層悪化している。

24. <和歌山県 家具>

3月の売上高は昨年同様であるが低価格の物が多く、利益率が減少しつつある。問合せ等も少なく今後の先行が不透明である。

25. <広島県 木材・木製品>

例年に比べ、春先の需要が少ないため、不安である。先行き不透明感がある。

26. <香川県 木材>

新築住宅における木材需要の減少に伴い荷動きも鈍くなっている。

27. <宮崎県 プレカット>

29年度は1年間を通して受注が安定していた年となった。来年度の数字についても、受注が大きく落ちる要素は見当たらないので期待している。

紙・紙加工品製造業

28. <静岡県 紙加工>

ティッシュやトイレ紙などは、5月からの値上げをする大手メーカーもある様子。中小の各組合員もエネルギーコストや古紙の値上げを製品価格に転嫁してかなければならない状況。

29. <愛知県 紙・紙加工>

3月前半の荷動きは低調に推移したが、後半にかけては年度末もあり好調な動きをみせた。青果物関連は5月の価格改定を控え仮需が発生している。

30. <愛知県 紙加工>

一時的ではあるが工業系の輸出関連に陰りがみられる。期待されたインバウンド関連も伸びがなく、全体的なムードとして景況が弱くなっている中で人件費等のコストが上昇しており、収益状況が悪化してきている。

31. <三重県 古紙>

中国の再生原料の輸入規制が続いており、古紙輸出ができないと業務が止まり大問題となる。日本からの古紙輸出価格は、前月より下落。人手不足や高齢化・労働条件の改善と賃金の上昇など、大きな課題が山積み。

32. <福井県 和紙>

先月の豪雪による被害からようやく抜け出ししかかっている。手すきを中心に受注も入ってきているが、原料の入手難、価格高騰に苦しんでいる。

33. <大阪府 古紙>

輸出市況の軟化から需給関係は急速に緩んでおり、国内製紙メーカーの在庫水準は高く購入制限等の動きが散見される。輸出価格は大きく下落している。

34. <島根県 紙製容器>

製品価格の上昇分が転嫁できない商品もあり、依然厳しい状況が続いている。値上げの影響もあり需要は停滞。

35. <佐賀県 紙加工>

現在料値上げに伴う製品への価格転嫁が進んでいない為、厳しい収益状況となっている。

印刷

36. <栃木県 印刷>

ニーズの変化、需要の停滞、過当競争、低価格、資材等の値上げなど厳しい経営環境に代わりはない。組合員数が減少している。

37. <神奈川県 印刷>

製本会社の廃業が続いている為、繁忙期である3月は例年以上に仕事が溢れているように感じた。加工先を探している印刷会社が多かった。

38. <長野県 印刷>

納期が集中して一時的に忙しかったが、前年比では仕事量が減少傾向。

39. <三重県 印刷>

年度末の繁忙期で、需要は他の月と比べて格段に増加した。

40. <富山県 印刷>

売上高の減少に加え、運賃、印刷用紙の値上げ等により収益状況の悪化が続く。中小規模業者は新卒採用が出来ない状況。

41. <石川県 印刷>

年度末ということから、官公需を始め民間からの発注もあり、印刷業界として売上高、収益共に確保されたものの、ここ数年来の厳しい状況が改善されないまま、現在も継続して緩やかに低下が続けている。

42. <滋賀県 印刷>
年度末で官公庁の入札等、多忙ではあるが、仕事に結び付くものばかりではないのが収益の悪化に表れている。
43. <京都府 製本>
組合員の廃業に歯止めがかからない。廃業先で受けていた超低単価の仕事が残された製本会社に戻ってきており、その対応に苦労している。
44. <大阪府 シール>
3月に入りやや持ち直している。輸出の好調等も影響し旺盛な個人消費に加えて訪日外国人によるインバウンド効果の回復を理由に食品や日用品、物流等のラベル需要が少しではあるが伸びはじめてきた。
45. <熊本県 印刷>
材料費等の価格が高騰。人手不足による残業が増加。仕上げ部門が人手不足。時給を上げてでも応募がないので納期の遅れが心配。

化学ゴム

46. <茨城県 化学・ゴム>
ほぼ横ばいの推移を保っているが、今後予想される原材料の高騰及び人件費の増加による製造原価の高騰が懸念される。
47. <愛知県 高圧ガス>
新規物件が少なく、市場全体が縮小している。納入価格は低位安定となっており、収益悪化が懸念される。
48. <奈良県 プラスチック>
原材料費・人件費の高騰が懸念される。
49. <兵庫県 化学・ゴム>
材料費と送料の値上げが尋常ではない。遠方の送料が何割かのアップではなく、2～3倍になっている。
50. <和歌山県 化学>
昨年同期と比較すれば、収益面で好調も原材料費の高騰が顕著となりつつあり、収益が悪化。製造部門や研究開発部門での人材補充が困難な事業所も出ている。
51. <島根県 プラスチック>
引き続き好調に推移しており、非常に多忙な状況が継続。新入社員は確保したが、目標人員には届いていない。材料・他資材の値上げが多く、個別の協議対応が間に合わない。

窯業・土石製品製造業

52. <秋田県 生コン>
3月の出荷数量は厳しい数字となった。平成30年度は全県で29年度を下回る数字が想定されることから、適正価格の確保が最重要課題。
53. <山梨県 骨材・石工品>
需要が堅調で骨材の在庫不足が続く。売上高は前年同月比20%改善。
54. <岐阜県 陶磁器>
業況は、概して良くない。特に国内向けが悪いと聞く。
55. <石川県 砕石>
3月の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向け出荷は19.8%増、合材用アスファルト向け出荷は23.5%の増、特需による出荷量は215.4%増となり、全出荷量では22.3%の増加。

56. <山口県 生コン>

出荷量は、前年比 117%、前年同月比 105%。現時点ではセメント・骨材等の資材調達
は、特に問題は生じていない。生コン価格は安定している。

57. <香川県 生コン>

平成29年度実績は、対前年比 1割増であり、販売価格も年間を通して、ゆっくりではあるが
上昇している。

58. <高知県 生コン>

当月出荷量は前年同月比97.6%で、4～3月の年度累計は91.4%となり、大幅な落ち込み。
周辺の市況は回復しつつあるが、高知市地区はなお低迷している。

59. <熊本県 窯業・土石同製品>

人手不足が深刻化している。

鉄鋼・金属製造業

60. <茨城県 鍍金>

昨年度末に比べ好調。受注については、半導体関連はかなり忙しく、建築・住宅関連の部品
も比較的好調となった。その他の業種についても同様に好調に推移。

61. <千葉県 鉄工>

景況感は横這いで推移。人手不足感は一層増しており生産活動に少なからず影響が出ている。
原材料高による収益圧迫も続いており先行きの不透明感は強い。

62. <静岡県 金属製品>

ここに来て一部企業の売上増、取引条件等が好転し始めた様子が伺える。

63. <愛知県 鉄工>

仕事量は充分あるが、人員不足で増産に直結していない。

64. <岐阜県 鋳物>

今年前半の景気見通しは概ね明るい。後半も建設機械・工作機・半導体関係が好調の見通し。
原材料・副資材の価格が高騰（コークス、フラン樹脂等）した半面、価格改定は厳しい。募集
をかけても人が集まらず、納期遅延をすることが多くなった。

65. <富山県 鍍金>

電子部品関連は、総じてスマートフォン関連を中心に好調を維持。建材関係は、商業施設関
連、ビル関連ともにオリンピック需要、東北復興の動きが少しずつ出てきたが、力強さに欠け
る。住宅（戸建て）は、低金利のお蔭で幾分活況があるが、全体的には弱い。

66. <京都府 金属プレス製品>

3月の状況は期末でもあり、全体として2月よりやや上向きとなっている。電子部品や半導
体、自動車関連（車載部品を含め）は安定しているが、新年度の先行きには不安を感じている。

67. <沖縄県 鉄工>

受注が上向いており売上高、販売価格ともに上昇しているが、資材の仕入価格も高騰してお
り収益状況は悪化。流通面におけるドライバー不足による運賃値上げやサービス低下でコスト
アップが懸念される。

一般機器製造業

68. <栃木県 一般機器>

注文量がやや増えているという感覚はあり、それに伴い操業度も増加しているが、相変わらず
人手不足であり増産対応が難しい。

69. <群馬県 一般機器>

円高基調のほか、根強い人手不足感に伴う人件費上昇、親企業による単価引き下げ、短納期要請等が続いており、今後も厳しい経営環境が続くことが懸念される。

70. <新潟県 機械器具>

売上高は好調に推移しているが、4月以降材料等の値上げが予告されており、収益状況に不安がある。

71. <長野県 一般機器>

人手不足感が増してきている。新規雇用の難しさに加え、転職がしやすい環境となっており従業員の離職を防ぐ対応に苦しんでいる事業所が多い。原材料・工具等値上げが続いており収益を圧迫している。

72. <三重県 一般機器>

新卒者の採用活動では、初任給以外に、所定労働時間や所定休日日数に学生の関心が強く、働き方改革など世間の動きに対応していくために、会社の勤務条件の見直しや検討も必要となってきた。

73. <奈良県 機械>

売上・受注は概ね好調であるが、人手不足による残業増の人件費や原材料・運賃の高騰により、収益性は芳しくない。

74. <兵庫県 一般機器>

企業格差はあるものの、年度末の駆け込み需要と思われるが、少しずつ回復傾向がみられる。一時的な受注に加え通常取引にも回復傾向がみられる。

75. <山口県 一般機器>

機械検査、機械加工関係、食肉加工、総菜、自動車、造船関係等すべての職種で業績は好調で残業も多く、外国人技能実習生受け入れ増員の相談が多い。

電気機器製造業

76. <長野県 電気機械器具>

円高株安が予想以上に続き企業の状態にも影響している。また、原材料、人件費の高騰が収益を圧迫している。

77. <山梨県 電気機械器具>

半導体部品製造は好調が続くが、他の業種は低調。新年度も厳しい状況である。

78. <静岡県 電気機械器具>

家電品全体としては、前年同月より好調であるが、製品によってはバラつきがある。冷蔵庫はやや苦戦しているが、ルームエアコンは好調。

79. <京都府 電気機械器具>

年度末需要に加え若干設備投資の増加があり、全般的に売上高は好調に推移したが、人材の確保に苦慮しており、新卒者採用は非常に低調な状況。時間外の増加、部材の高騰等が製造原価を押し上げ、利益増に直結しない。

輸送用機器製造業

80. <神奈川県 輸送機器>

2月の輸出船契約実績は14ヶ月連続で増加し、2月末時点の手持ち工事量は3か月ぶりに増加したものの、足元では採算の悪い船舶の建造が始まろうとしている。

81. <静岡県 輸送機器>

年度末の需要増で生産量増加し、多忙な状況が続いている。全般に比較的好調な状況にあると思われるが、円高傾向にある為替により輸出型企業の下請け組合員は楽観してられない。

82. <愛知県 輸送用機器>

年度末を迎え、各事業所は多忙。相変わらずの従業員不足を生じている中、材料価格や物流コストの上昇等、収益状況は一向に良くならない。

その他

83. <宮城県 表面処理>

金属原材料の高騰による利益率の低下等で経営を大きく左右される企業も出てきている。原材料費の上昇分を製品価格に転嫁できていない。

84. <秋田県 漆器>

異動、退職の時期となりその御礼、祝い品の動きは多少あった。漆器伝統工芸館の売上は昨年より落ち込んでいる。

85. <千葉県 碎石>

期待していたオリンピック需要も期待されたほどではなく、厳しい状況になると思われる。

86. <東京都 ボルト・ねじ>

受注件数は増加しているが、短納期と人員不足のため受注が受けられない状況が続いている。

87. <愛知県 アウトソーシング>

国内販売及び輸出の自動車生産において、若干だが上向き傾向にある一方、雇用人員の確保に苦慮しており、新年度以降も人材不足の課題は続く。

88. <富山県 漆器>

組合員の高齢化が進み、脱会者が増える見込み。業界の雇用状況は厳しい。

89. <大阪府 金属熱処理>

売上状況は前年同月比を上回る勢いであるが、原材料の高騰により利益は圧迫されている。受注量の増加に対応するために設備の増設を行っているが、作業員の負担も増加し、中途採用等の募集をしているがなかなか集まらない。

90. <鹿児島県 畳>

人事異動に伴う畳の表替え等が減少している。また、リフォームにより畳間を設置しない家も増えている。

《非製造業》

卸売業

91. <千葉県 自動車解体>

鉄スクラップは一時下落の気配があったが、持ち直した。年度末を迎え、やや忙しさはある。

92. <東京都 ニット>

衣料品に対する買控え傾向は依然として根強い。経営環境も依然として厳しい状況が続いており、組合員数の減少が目立ってきている。

93. <東京都 織物>

業績の悪化や後継者不足等の理由で脱退を希望する組合員が増加している。

94. <愛知県 事務器>

文具業界は新入学、卒業シーズンのこの時期が一番多忙であるが、少子化の影響からか以前のような忙しさがなくなり、平準化されてきた。

95. <石川県 事務器・事務用品>

年度末の官公庁の納入・検収が多く、売上高・収益とも昨年より微増。民間の備品の買い替えも見られた。

96. <和歌山県 機械器具>

3月の現場案件数(官公庁・民間)は、前月同様少ない状況が継続。2年前の同時期に比べ需要が回復していない。

97. <広島県 総合卸>

大手運送業者の運賃値上げにより、中小企業はコストアップとなっている。

98. <徳島県 食料>

売上原価の上昇が利益を圧迫。人手不足による人件費上昇が利益を圧迫。

99. <高知県 卸団地>

景気回復は感じられない。採用難が続く。県内の外食産業では、営業時間の短縮や休日を増やすところが出てきている。新卒採用は年々厳しくなっている。

100. <佐賀県 陶磁器>

需要の停滞と同時に原材料や流通コストが上昇し、利益を確保するのが難しくなっている。

101. <熊本県 各種商品>

震災後の復興需要で昨年から全体としては売上が増加したが、仕入価格が上昇しているので収益面の変化はない。

小売業

102. <青森県 食品>

決算月であり、昨年対売上数字は達成できたものの、仕入の値上、経費上昇の要因などの課題が多々あり、解決する方法を検討する必要がある。

103. <岩手県 自転車>

1年の中で最も売上が多い月であるが、昨年に比べると思ったより売上が伸びなかった。

104. <山形県 野菜>

3月中旬から野菜が大暴落し、大根、白菜、キャベツ、きゅうり等が平年並み以下の安値となり、収益が悪化した。

105. <茨城県 石油>

原油価格が高値で推移している為、ガソリンの販売価格は前年同月比で11円上昇。省エネ車の普及等に伴い、販売量は減少となった。安値販売競争の影響により、マージンが圧縮されるなど、依然として厳しい経営環境が続いている。

106. <千葉県 電気機器>

2、3月の販売状況は最悪。修理、相談の電話も極端に減少。現状は厳しいの一言。平昌オリンピック、パラリンピックに期待したが、そんなに甘くは無かった。

107. <三重県 自転車>

少子化により台数では昨年比15～20%程度の減少となり、1店舗の企業努力ではどうにもならないような状況となっている。

108. <広島県 生鮮>

人手不足が続いており、事業拡大が困難な組合員が増えている。

109. <鹿児島県 石油>

原油価格は大幅に上昇したものの、為替相場の影響で若干相殺された。販売量は厳しさを一層強めつつあり、営業利益に影を落とした。新卒者を迎える時期であるが、人手不足解消には至らず、営業存続に支障をきたしている。

商店街

110. <宮城県 仙台市>

3月は上旬が寒かったが、中旬以降数日を除き、気温が高く温暖な気候が続いたため、通行量がかなり増加した。客入り・売上とも、例年をある程度上回り、好調であった。ただし、高額な商品の売れ行きは相変わらず芳しくない。

111. <群馬県 藤岡市>

初旬は肌寒い日が多かったが、中旬以降は気温の高い日が多く、真夏日を記録する日もあったため、季節商品の春物の動きが例年より早くなった。

112. <静岡県 藤枝市>

3月の初めは大変であったが、中旬から人通りも出始めて売上につながった。

113. <石川県 近江町>

週末にたくさんのお客が来場し、賑わった。特に春休み期間中は、学生グループ・外国人のお客様が目立った。商品券の期限前駆け込み利用が売上に繋がった店もあった。

114. <山口県 山口市>

気温の上昇とともに来街者が増加。各店舗に活気が出てきたが、人手不足が続く。さらに、年度末へ向け、資金調達、人手不足、後継者問題と抱える問題が多い。

115. <香川県 高松市>

後半は天気も良く、お花見が早かったせいか郊外へ人が流れた様子であり人通りが激減。飲食店は新規オープンした店に流れ、老舗も歓送迎会が減少し、一段と厳しい月であった。

116. <福岡県 福岡市>

外国人旅行客は相変わらず多く、商店街は一見賑わっている。しかし、商店街内店舗では消費意欲の低迷が引き続き、景気回復感も今ひとつで、大幅な売上増には繋がっていない。

サービス

117. <北海道 ソフトウェア>

道外への人材流出が加速している。特に、技術系人材は道内のIT企業間で激しい争奪戦となっている。そのため、採用に大きな労度をかけても確実に確保できるかどうかかわからないと新卒の採用活動を見送り、即戦力となる中途採用に重点を置く中小IT企業が増えている。

118. <山形県 美容>
65才から75才までの「パソコン時代」に乗れない方々の脱退が多く、組合員が減少。お客様の送迎に必要な「自動車免許を持たない」美容師と、一人美容室の脱退者が相次いだ年であった。
119. <栃木県 ビルメンテナンス>
構内作業請負の仕事が引き続き増えており、収益も向上している。
120. <愛知県 温泉旅館>
外国人観光客の増加はみられるが、国内旅行はいまだ横這いまたは減少傾向にある。
121. <鳥取県 観光>
3月は平年より暖かく、積雪がなくなりスキーシーズンが短かったため、観光地大山の売上高は前月比、前年同月比ともに減少。
122. <愛媛県 ビルメンテナンス>
最低賃金が引き続き上昇するなど人件費や物件費が上がっているが、競争が激しくそれに見合ったほど落札価格は上がっていない。

建設業

123. <青森県 一般土木建築>
陳情やボランティア活動などの結果、以前に比べ大型工事に関しても、大手建設会社だけでなく、大手と地元業者で組んで（共同企業体）の工事や地元業者数社で組んで行える工事が多くなってきている。元請けの地元業者はじめ、下請けの地元業者にとっても良い傾向。
124. <宮城県 硝子>
ガラス工事、リフォーム関連の仕事に若干バラツキがあるが前年度並みで推移。4月以降は残工事と小物件でガラス工事などは落ち着くと予想するが、住宅サッシの販売は落ち込む一方。
125. <群馬県 電気>
売上高・収益状況ともに年度末の建築関連工事の増加に伴い、改善傾向にあるが、雇用人員の確保に苦慮している。高齢化による事業継続困難と後継者不足により、組合員数は減少。
126. <埼玉県 塗装>
年度末決算時期との兼ね合いもあり、業務多忙。順調に推移している。
127. <神奈川県 空調設備>
仕事はあるが、現場工程の遅れ、人手不足などで新たな仕事が取れない。資材の値上げ、運送費などの値上げで利益が出てこない。
128. <愛知県 管工事>
設備工事は受注好調で推移しているが、資機材の値上がりと人手不足の影響で人件費が高騰。忙しい割には利益が伸びない。
129. <兵庫県 管工事>
3月は年度末ということもあって、各社とも忙しかった。
130. <和歌山県 一般土木>
年度末であったが公共工事の受注高は前年同月に比べ低調であった。
131. <愛媛県 クレーン>
仕事量はあるものの、従業員・アルバイト等での人手を増やすことが出来ず、仕事を断っている場合もでるほど、従業員不足が深刻な問題になっている。
132. <長崎県 建設>
大手・中堅建設企業が好調な業績を背景に、好条件で新規採用を増加させているため、県内中小建設企業の新規採用人数は限られ、人材確保はますます厳しい状況になっている。

133. <熊本県 鉄筋>

資材、鋼材、ガソリンの値上がり、そして労働力の不足が継続。労働力に関しては募集をかけても応募が無い。

<熊本県 鉄骨>

災害復旧工事に加えて耐震改修工事も出て来ており、しばらく繁忙状態が続くと思われる。

運輸業

134. <栃木県 一般貨物>

荷物情報量は順調に推移しており、運賃料金は微増ながら回復傾向を示している。しかしながらドライバー不足によるコスト増加は避けられず最大の課題となっている。

135. <東京都 港湾>

貿易貨物量が増加しているが、運転手不足と慢性的な長時間待機により稼働率が悪化。

136. <神奈川県 道路貨物>

荷主が年度末の集中を分散してくれたため、月初より稼働があったが、臨時の運転手等を確保するために時給単価を大幅に上げた影響で収益が悪化。ドライバーを他社へ移動させない為、臨時の賞与等を毎日、日払いで出す等の負担が重かった。

137. <山梨県 道路貨物>

ドライバー不足が深刻だが、改善の見込みはない。

138. <静岡県 道路貨物>

荷動きは良いが、ドライバー不足により車が見つからない状態。

139. <三重県 一般貨物>

ドライバー等従業員の確保が難しく、ドライバー不足の状況。

140. <石川県 運輸貨物>

売上や出荷量は前年同月よりも減少しているものの、大手宅配などの運賃値上げなどにより荷主側に値上げ等の必要性が理解され、取引条件が好転してきている。

141. <福井県 一般貨物>

慢性的な人手不足のため、2台のトラックを連結して配送する動きが出始めている。引越業務に関しては殆ど手を回せないような状況にあり、大手業者に外注していた。

142. <京都府 一般貨物>

引越運送については人手不足による混乱が大きかった。アルバイトについても宅配業者へのシフトにより人が集まらなかった。

143. <奈良県 一般貨物>

燃料の高騰傾向が続いており、経営を圧迫している。仕事の確保は出来ているものの人手不足の状況は改善されないことから、ドライバー確保に苦慮し、現状維持が精一杯で事業拡大は難しい。

144. <島根県 一般貨物>

昨年同様、年度末の繁忙期を感じる事がなく、引越し関係以外の一般貨物関連の荷動きは低調に推移。車両不足、ドライバー不足の状態は改善されておらず、売上増につながる新規または一時的な受注に対する車両確保が難しい状況が続いている。

145. <香川県 タクシー>

地方の景気回復の遅れ等により、運送収入、輸送収入が減少しており、非常に厳しい経営状況が続いている。乗務員不足が深刻化しており、輸送需要が集中する午前中や夕方時間帯を中心に、配車依頼に十分対応できていない状況。

146. <愛媛県 観光バス>

全県的に団体・企画募集共受注の動きが鈍く、稼働率・営業収入ともに低調な結果となった。

147. <福岡県 一般貨物>

売上高は増加し価格も上昇傾向にあるが、燃料価格の上げ止まりと人件費のアップにより利益は確保できていない。人手不足により受注を断るケースも目立ち始めた